

検証 検証2005年の自然災害

Assessment of Disaster Damage in 2005

# 豪雪災害

白い悪魔が厳寒の地を襲う  
記録的な豪雪により各地で災害が多発



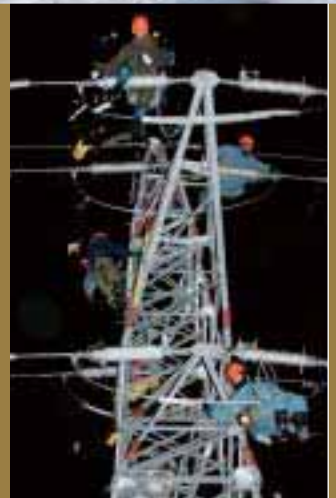
雪で屋根が崩落した谷合体育館（岐阜県山県市谷合）〔写真提供 / 毎日新聞社〕

2005年初頭（04年12月～05年3月）北陸や東北では記録的な大雪となった。3月に入っても、青森県弘前市では積雪が過去最高の150cmを記録するなど、大雪の期間は長く、新幹線や在来線の運休、家屋の倒壊といった被害も出た。人的被害は死者86人、負傷者758人。住家被害は全壊55棟、半壊5棟、一部破損94棟となっている。（05年3月23日現在）

同年暮れから翌06年にかけての冬も豪雪となった。この冬の大きな特徴は、早い時期から大雪になったこと。12月中旬から本格的な雪が降り始めた結果、気象庁が積雪を観測している339地点のうち106地点で12月としての最深記録を更新した。さらに12月22日には、新潟県の下越地域などで65万戸が停電する事態が起きた。

降雪はその後も続き、06年に入ると新潟県の津南町や湯沢町で1月の過去の降雪記録を塗りかえた。大雪による被害は県内各地に広がり、中でも除雪作業中の事故などが目立った。豪雪による死者は全国で150人にのぼり、戦後最悪の通称「38豪雪」に次ぐ被害となった。死者全体のうち65歳以上が97人を占め、うち74人が除雪作業中の事故などで亡くなっている。

人的被害は死者150人、負傷者2135人。住家被害は全壊18棟、半壊26棟、一部破損4654棟となっている。



送電線の復旧作業をする東北電力の作業員（新潟県神林村）〔写真提供 / 毎日新聞社〕